

主要科目の特長（リハビリテーション学部理学療法学科）

理学療法学科のカリキュラムを構成する科目群・分野の内容は次のとおりです。

（1）NGU 教養スタンダード科目

・キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

・自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来になりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

・情報に関する科目

高度情報化社会の要請に応えるため、数理・データサイエンス・AI 教育の充実は、本学の情報教育の特色です。1 年次の「情報処理リテラシー（必修科目）」では、ノートパソコンを使って情報処理の基礎知識と基本スキルを学修します。また、「データサイエンスリテラシー」「データサイエンス概論」「AI 概論」「情報処理論」などでは、数理・データサイエンス・AI の基礎知識と様々な応用法、並びに近年のデータサイエンス分野の動向などを学修します。

・言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を必修として学ぶほか、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現」を必修として学び、日本語表現法関連科目を学修することができます。

・社会的教養に関する科目

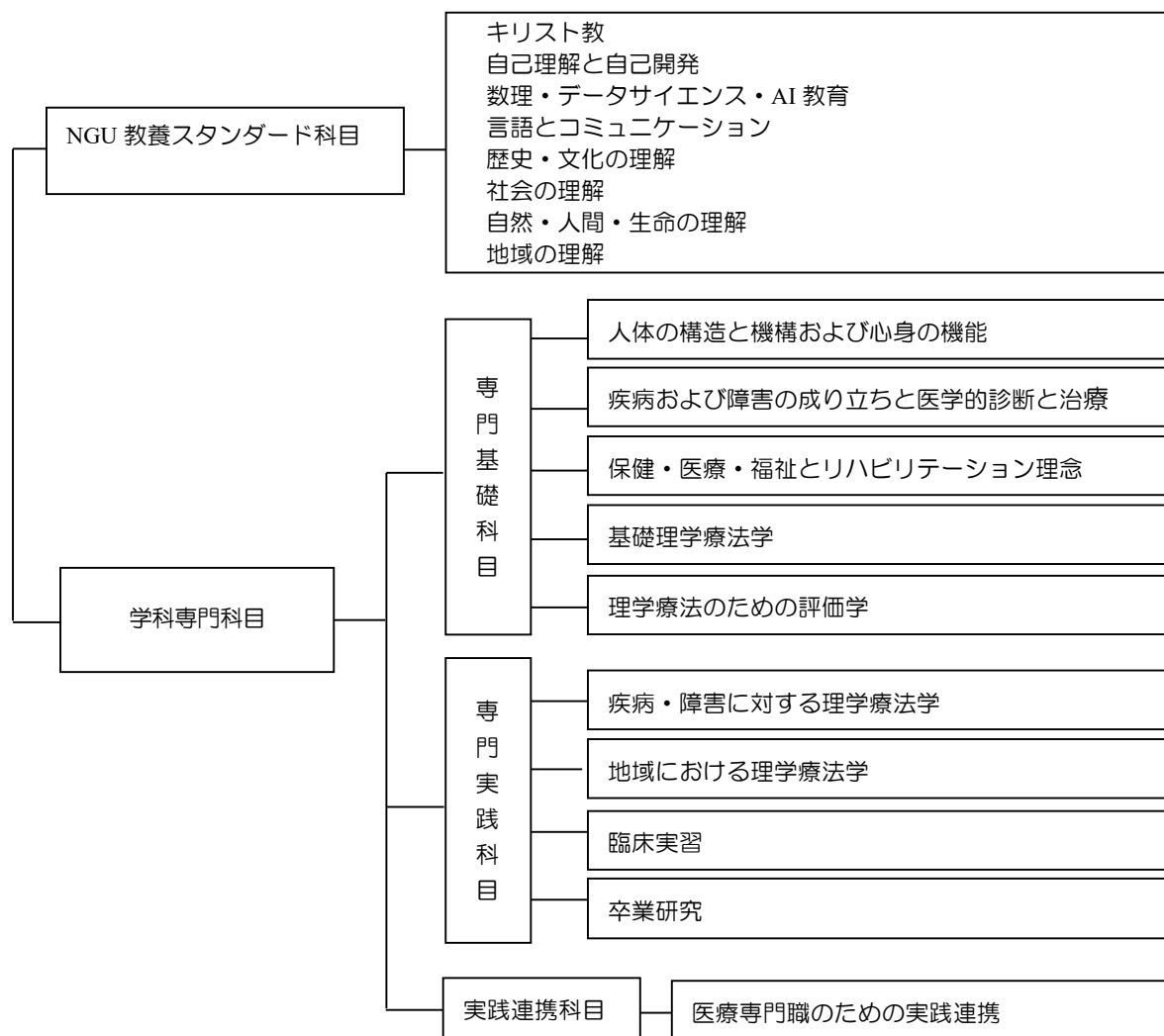
自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の 4 区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

(2) 専門科目

《学科専門科目》は《専門基礎科目》、《専門実践科目》、《実践連携科目》で構成しています。カリキュラムと《専門科目》の特徴は以下のとおりです。

- 1) 《専門基礎科目》では、医学としての基本となる＜人体の構造と機構及び心身の機能＞、人体機能の低下や亢進によって起こる疾病・障害を理解し、治療へと発展するための＜疾病及び障害の成り立ちと医学的診断と治療＞、社会構造における医療の成り立ちを理解するために＜保健・医療・福祉とリハビリテーション理念＞を置き、さらに本学部の基本である＜基礎理学療法学＞＜理学療法のための評価学＞を配置して基礎的な知識、技術の修得をめざします。
＜人体の構造と機構及び心身の機能＞には「解剖学 A・B」「生理学 A・B」「運動生理学」などを、＜疾病及び障害の成り立ちと医学的診断と治療＞には「病理学概論」「内科学」「整形外科学」「臨床神経学」「精神医学」「小児科学」「リハビリテーション医学」などを、＜保健・医療・福祉とリハビリテーション理念＞には「地域包括マネジメント論」「チーム医療論」「ヘルスプロモーション論」などを配置します。＜基礎理学療法学＞には、「理学療法学概論」「運動学」「臨床見学実習」「医療統計学」「人間発達学」「専門セミナーⅠ・Ⅱ」などを配置し、＜理学療法のための評価学＞には「理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ」「バイオメカニクス」などを配置します。
- 2) 《専門実践科目》では、本学部の目的である理学療法について実践から応用にいたるまでの幅広い科目群として、医療的な個々の疾病・障害を実践するための＜疾病・障害に対する理学療法学＞、医療分野以外で理学療法を実践するための＜地域における理学療法学＞を配置します。
＜疾病・障害に対する理学療法学＞には「臨床理学療法学 A・B・C」「理学療法治療学」「物理療法学」「日常生活活動学」「義肢装具学」などを配置し、＜地域における理学療法学＞には「地域理学療法学実習」「リハビリテーション活動演習」を配置します。
これらを応用する＜臨床実習＞として、理学療法に関わる検査測定手技を学習する「検査測定実習」、理学療法評価を中心とした「臨床評価実習」、評価から治療計画を立案し実践する「臨床総合実習Ⅰ・Ⅱ」を配置します。さらに、＜臨床実習＞をより円滑に進めるために必要とされる知識・技術を整理する「臨床実習指導」を配置します。
- 3) 《実践連携科目》では、理論に裏打ちされたプロフェッションの育成を教育の基本方針にあげていることから、医療専門職としてのあるべき姿を培うべき科目群＜医療専門職のための実践連携＞を配置し、「理学療法学研究法演習Ⅰ・Ⅱ」「理学療法管理学」「理学療法学応用セミナー A・B」を配置します。

＜リハビリテーション学部理学療法学科の科目の体系＞



◎専門科目の一部をピックアップ

check! 解剖学 A・B		check! 臨床理学療法学 C / C演習	
			
何を学ぶのか	将来にどう生きるのか	何を学ぶのか	将来にどう生きるのか
人体の形態や構造を通じて運動機能を学ぶ。 1年次に医療現場で必須となる人体の正常な形態や構造について、解剖学 A・B および解剖学 A・B 実習を通して学びます。解剖学 A では座学と実習によって運動機能を支える骨・筋・関節についての基礎的な知識を養います。	治療やリハビリを行うための基盤を築ける。 動作や怪我、病気に関する知識を得ることで、患者の体を理解し効果的かつ安全に治療やリハビリを行うための基盤を築けます。解剖学の修得は医療従事者間の連携に不可欠で、患者のケア向上につながります。	内部障害に対してリハビリを行う知識を養う。 超高齢社会では、多疾患による重複障害の人が増加しており、内部障害に対するリハビリテーションの重要性が高まっています。見た目にはわからない身体内部の障害に対してリハビリテーションを行うための知識を養います。	様々な臨床場面で役立つスキルが身につく。 内部障害系の疾患である循環器疾患、呼吸器疾患、腎臓疾患などの基礎医学領域や、理学療法の専門知識や技術を身につけます。これらのスキルは、急性期・回復期・維持期（生活期）・終末期など様々な臨床場面で役立ちます。